
思春期

切原美樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思春期

【Zコード】

Z2338F

【作者名】

切原美樹

【あらすじ】

最近、赤也の事を避けるブン太。その事が気になつて仕方がない赤也は仁王に相談する事に。ブン太が赤也を避けるわけとは……？「思春期って、意味わかんねーっス！！」

(前書き)

投稿1作目です。温かい目で読んでもらえたらな…と思つております。（汗）

「うおお……赤也……こっち来んな……」

最近、丸井センパイの様子がおかしい……。近づこうとするとき、今みてえにすげー声出して俺の事避けるし……。何でだ?俺、何かしたつけ?はつつ……まさかとは思うが

嫌われてんの!?!?俺……。そうだとしたら、まじショックぢゃん……。だって、考えてみてくださいよ?やつと手に入つたものが、自分を嫌つて遠ざかつて行っちゃうんすよ?

俺だつて一生懸命アピつて、ようやくあの人を手に入れただし……。もし、本当に俺の事嫌つてんだったら、立ち直れねえよ……。

「……何故そんな事俺に聞くんじゃ?」

「仁王センパイなら、丸井センパイと同じクラスだから何か知つてんぢやないかと俺は考えた。」

「そう言う事は参謀に聞いた方がいいと思つぜよ?」

「あの人ガ、そう簡単に教えてくれると思こます?あの柳センパイが……。」

「それもそうじゃの……。だから心優しいこの仁王センパイに頼んだというわけか。」

「そうツス!」と、こび笑いをしながら頷く。てか心優しいなんてこれっぽっちも思つていない。だいたいこの人は人を騙すべてん……。あれ?

「でも、赤也、忘れている様だから言つておくが俺は……」

「そう言ってセンパイは「ニヤリ」と、怪しく笑つて、こう言つた。

「悪魔をも騙せる」コート上の詐欺師、仁王雅治ぜよ?……ふり!」

「ふり！じゃない！！意味わかんねえッスよ……？ そうだ…もつとよく考えて相談するんだった！！！ そうだよー」の 人詐欺師じやん！「…ペ・て・ん・しつ！！！ あああ！！！俺の単細胞！！！ こうやって1人でぱにくつて いると「王センパイは楽しそうに笑いながら、こう言った。

「いいぜよ、協力しちゃる。」

「え・・・・い・・・・今なんと？」

「だ」か～らあ、仁王センパイがその理由を探るのに協力する、と言つてるんじや。」

まじかよ・・・・。

「仁王センパイ！！ ありがた「つかねつ」ビジヤ！！ 丸井！！ もう入つて来てもよかよ。」

・・・・・・・・・・はい？

すると、部室のドアが開き、そこにはいたのは・・・・

「ま・・・・・丸井センパイ！！！？」

「丸井、話は聞いとつたな？」

「ああ・・・・」

「ちよつ・・・・待て！！？ どうこいつ」とだ・・・・！？ 丸井センパイが何でここに！？

「ちゅうわけじや、赤也あとは1人でがんばれ。」

そう言つて仁王センパイは、出て行つてしまつた。まじわけわかんねえ。

「「「・・・・・」」

2人きりの部室は、シン…と静かで…でも、その沈黙を先に破つたのは丸井センパイだつた。

「・・・・赤也…悪イ…」

「え・・・・？」

「お…俺、赤也の事全然嫌つてねえからッ…むしろ…」

そう言つと、少し間をおいて、顔を赤くしてボソッと呟いた。

「むしろ…好きだし…／＼／＼」

ああ～～なんでこの人こんな可愛いんだよ／＼／＼つじゃなくって
！～き～聞くなら今だ！今しかない！！

「…じゃ、何でセンパイ、俺の事最近避けてたんスか？」

「そ～～それはツ～～～～大人の事情？」

「大人つて…センパイ俺より背ちつちやいじやないつスか！～～！」

「だあああ～～～～それを気にしてるつて言つの～～ツ～！」

「ヤベツ～！」つて顔しながら自分の口を塞ぐ。

「…そんな事…気にしてたんスか？」

センパイの顔を覗きこむ…。すっげえ真っ赤だ。

「だつて、かつこ悪いじやん…俺のが年上なのによ…それに、目線
上にしてお前と喋つてるんだなつて思うと…かつこつかねえし…」
「そんな事ないつスよ！小さくたつて可愛いし、丸井センパイは、
すっげえカッコイイツス！つてか、俺丸井センパイが傍にいてくれ
れば、それでいいツス！」

俺は、ニカツと笑つてみせた。つうか、こんな事言つてる割にはち
ょつと嬉かつたりする。だつてそつ思つのは、ちゃんと俺を意識し
てくれてるつつうことだし。

「（…コイツ可愛すぎんだけど／＼）赤也！」

俺の肩を『ガシッ』と掴む。その手はかなり力がこもつていた。

「やらせろツ～～（本氣）」

「はあ～～？あ…あんた何言つてるんスかアアア～～～（怒）」

・・・何か思春期つてメンデーつすね・・・。

（END）

（後書き）

最後まで読んで頂きありがとうございましたー！駄文ですみませんッ
ツー！（滝汗）これから頑張つて書くのによろしくお願いしますーー！
…ギャグにしようとしましたが…笑えないですねツー！（泣）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2338f/>

思春期

2010年10月11日04時03分発行